

# 埼玉農業普及学会会報

第20号

- 平成20年度通常総会の内容 ..... (1)頁
- 第25回研究会の内容 ..... (2)

## 平成20年度通常総会開催される



平成20年6月15日(日)、さいたま市JACK大宮「東天紅」において、平成20年度埼玉農業普及学会通常総会が会員36名の参加のもとに盛大に開催されました。

当日は、北岡会長あいさつの後、会長が議長となり議事が進められました。

上程された議案は、

第1号議案：平成19年度事業報告及び収支決算の承認について

第2号議案：平成20年度事業計画(案)及び収支予算(案)の議定について

第3号議案：平成20年度会費の徴収方法について

第4号議案：役員改選について

各議案は、慎重審議の結果、原案どおり可決決定されました。

来賓として、日本農業普及学会 狩谷昭男氏、農業支援課 福田和明課長に御祝辞をいただきました。

新役員は次のとおりです。

顧問	深井隆一
顧問	滝澤和雄
顧問	北岡美明
会長	竹之内定雄
副会長	島崎 昭
副会長	中澤 正至
副会長	大川恵美子
理事	新井えり子
理事	有馬洋太郎
理事	遠藤 紀浩
理事	黒澤 健一
理事	小林 信雄
理事	小林 佳月
理事	志水 久夫
理事	田邊 虎男
理事	仲田 誠
理事	福田 和明
理事	本間 利明
理事	峯岸 芳雄
監事	片山 和信
監事	定国 康徳

総会后、第25回研究会が開催され、平成19年度農林水産省「立ち上がる農山漁村全国表彰」に選定されたさいたま市の「見沼田んぼ福祉農園」代表 猪瀬良一氏による「福祉農園10年の活動から見えてきた農業の魅力について」と題する講演が行われました。(講演要旨は裏面)

## 第25回研究会講演要旨

## 「福祉農園10年の活動から見てきた農業の魅力について」

見沼たんぼ福祉農園

代表 猪瀬 良一 氏

農業が持つ農産物生産以外の機能が注目されている。環境や教育、福祉など暮らしと関連する分野に農業がどう関わるのか。

さいたま市見沼たんぼで福祉農園を運営し、その活動が農水省全国表彰として認められた代表の猪瀬良一氏からパワーポイントを使って農園の活動状況を写真での説明を中心に1時間の講演をいただいた。以下その要旨です。

## I 福祉農園の概要

見沼たんぼ福祉農園は、平成11年4月に旧浦和市南部領辻（現さいたま市緑区）の一角に開園した。デイケア施設等の複数の福祉団体が職業自立をめざして農作業を実践したり、若者ボランティアによる農園整備、農産物収穫・販売活動を、地域の人たちと一体的に行なっています。福祉農園には、障害がある者を「支援する、支援される」という関係はありません。障害のある者も、ない者も共にあることが当たり前と感じ、またそのように日常活動をしています。農業をやったことがないスタッフ達が近隣の農家の方々や農園ボランティアの方々にアドバイスをいただきながら、無農薬で美味しい野菜を作るために日々、試行錯誤を重ねています。

現在は3つの農園がありますが、最初の第一農園の開園は苦労しました。荒廃農地でしたので雑草との闘いでした。



## II 土づくりは人づくり

除草を徹底して、周辺の農家に迷惑をかけることを心がけた。雑草は雑草を生み、害虫の住みかとなるため、「雑草を堆肥に、土づくりは人づくり」として雑草は集めて堆肥にしている。この農法は一度失われかけた見沼の自然の復活に大きな役割を果たしている。

## III 農園づくりの5つの視点

- ・地域に伝わる智慧の活用
- ・武蔵野と呼ばれた地にふさわしい農園づくり
- ・里山で間伐した竹を使った暗渠による排水改良
- ・落ち葉や雑草を使った堆肥づくり
- ・泉や小川などの自然の仕組みを活かした環境整備

## IV 農業の魅力と今後の展開方向

農の持つ安心感が福祉にも、環境にも良い影響を与える。また収穫祭など各イベントなどを通じて人々の活動を活発化させる。今後は見沼たんぼの保全活動や都市住民へ生産した野菜の供給などの取組を通じ、組織の体制整備や人材の育成により、福祉農園の維持継続を図りたい。

(文責 事務局)